

Q

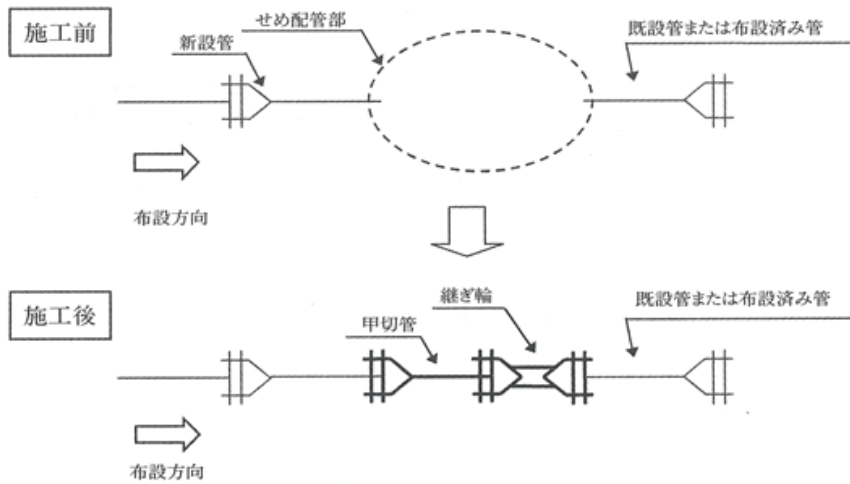
16.継ぎ輪はどのような箇所に使用しますか？

A

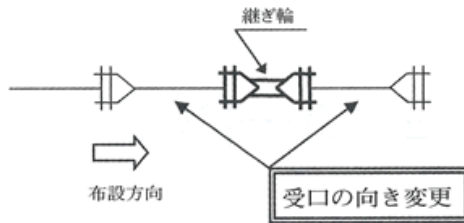
継ぎ輪は両受口の異形管であり、一般に使用箇所は以下のケースになります。なお、耐震継手の継ぎ輪にはライナがありませんので、耐震管路の場合は一体化長さの範囲外で使用します。やむをえず一体化長さの範囲内で使用する場合は、市販の継ぎ輪用離脱防止金具を用います（NS形呼び径75～1000）。また、異形管の挿し口に継ぎ輪を接合すべきではありません（接合要領書、施工編QA、設計編QA参照）。

印刷

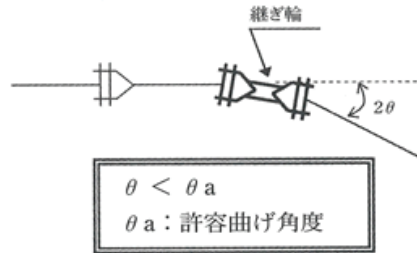
①せめ配管（結び配管）部（例）



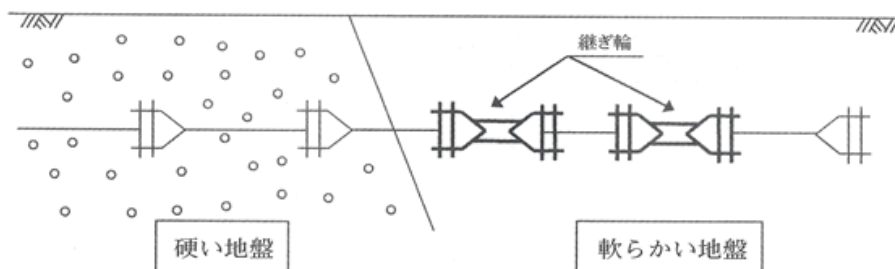
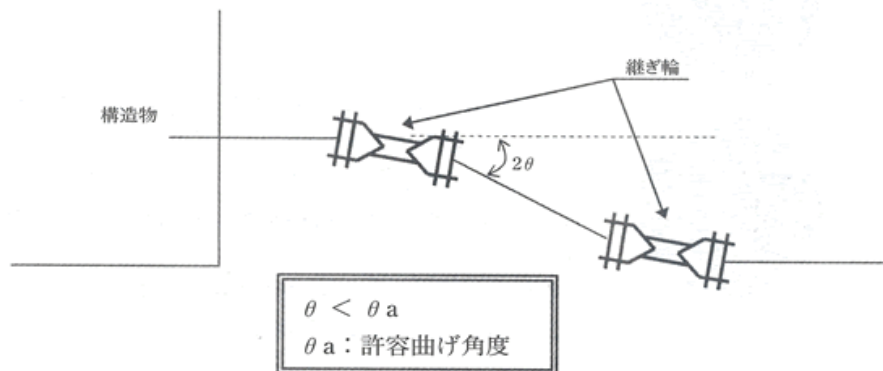
②受口の向きを変更したい時



③曲げ配管部



④構造物との取り合い部、地盤が急激に変化する部分



⑤乙切管の残管処理時

